

管内企業ボランティア続々

胆振東部地震

胆振東部地震で住宅やライフラインに甚大な被害があった胆振管内厚真町や安平町へ自治体職員や企業ボランティアを派遣する動きが、管内でも本格化している。少なくとも100人規模の支援が見込まれ、被災地の早期復旧に向けた貢献への期待は大きい。

自治体も派遣本格化

厚真町で過去に土木工事を行ったことがある縁で、宮坂建設工業(帯広)は14日から4日間、ボランティア22人を派遣し、同町の避難所で豚丼など計3千食の炊き出しを行う。ボランティアのまとめ役の戸松義博副社長は「緊張しているが、喜んでもらえるよう頑張りたい」と意気込んだ。

また、登寿ホールディングスダスキン事業部の4人も14、15日、厚真町で仮設トイレの清掃を行う。一方、自治体職員の派遣はこれからが本番だ。十勝総合振興局は既に職員6人

をむかわ町に派遣。第2陣として15日から4人を同町に送る。災害時における道と各市町村の相互支援に関する協定に基づき、十勝管内の全自治体職員約60人も15日から5日間、安平町を中心に応援に入る。振興局の担当者は「職員数が限られる中、積極的に要請に応じていく」と話す。

帯広市の13人を筆頭に、各自治体から2〜4人が現地入りし、罹災証明書の発行や災害ゴミの受け入れを担う。更別村は当初、安平町に派遣予定だったが、急きょむかわ町に2人へと変

10人程度が応援に入る見込み。更別町からは4人を派遣する予定。税務課の堀優真さん(29)は「鵲川高校を卒業したので厚真町の地形は把握している。被災者に寄り添って少しでも貢献できれば」と話していた。職員の派遣とは別に、鹿追町は厚真町へ支援物資としてペットボトル(500ミリ入り)の飲料水などを届ける。

被災地の支援に出発した宮坂建設工業の社員
(同社提供)



社員が厚真町へ 炊き出しに出発

宮坂建設工業

宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)の社員22人が13日、胆振東部地震被災地の胆振管内厚真町に出発した。現地では14、17日、炊き出しによる支援を行う。

同町の「総合ケアセンターゆくり」駐車場ですと夜の1日2回行う予定。カレーや豚汁、豚丼、シチュー、そばなどメニューを毎食替

え、1回につき約500食を提供する。

同社による被災地支援は2014年に広島県の土砂災害が発生した際、現地で炊き出しを行って以来。高道伸専務は「寒さも厳しくなっているので、温かい物を食べていただきたい」と話した。

これとは別に、同社関連会社の登寿ホールディングスダスキン事業部の4人も14、15日に現地入りし、仮設トイレの清掃作業を行う予定。
(中島佑斗)



14日から約3000食を振る舞い、17日昼は豚汁を提供した宮坂建設工業（新井拓海撮影）

温かい食事で「元気を」

宮坂建設が炊き出し

被災地には15、17日の3連休も多くのボランティアが入り、炊き出しなどの支援活動に汗を流した。宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は14、17の4日間、胆振管内厚真町で約3000食を提供し、被災者の力となった。

同町で仕事を長年行つて

いることから、少しでも町民に元気を活動を決めた。帯広、札幌から社員22人が集まり、豚丼やカレー、うどんなどを昼食、夕食に提供。汁物や炒め物などの調理ができる「レスキューキッチン」を使い、温かな食事を振る舞った。17日昼も多くの町民がお

盆などを手に並んだ。恵庭市に避難し、町内にある家の片付けのために訪れた郡泰士さんは孫2人と並び、「先日の豚丼は本場十勝の味でおいしかった。仕事も再開できず、普通の生活に戻れない中で本当にありがたい」と喜んでいた。

同社はトイレ掃除や段ボールベッドの貸し出しなども行つた。ドローンを使った被害状況調査、大型機械による危険地域での土砂撤去なども行っている。

現地視察した宮坂社長は「今まで見てきた中で桁違いの被害状況。山が崩れ、（倒れた木の）根が上に向いている。雨次第で二次災害もあり得る」と懸念し、「冬場だったら大雪だった。必要があればまた来ること考えている」と話した。使用したレスキューキッチン（72）は、むかわ町で炊き出しを行っている山口幸雄さん（72）が代表を務める民間支援組織「災害救援ネットワーク」に貸し出す。（松田亜弓）

温かい食事で被災者激励

本社、札幌支社の社員が炊き出し

カレー、豚丼など4000食



被災者を支援するため、温かい食事を提供した

しい。元気な声にとっても勇気付けられた」と感謝。宮坂社長は「建設業者が早く現地に来てくれて心強かったという声をたくさん聞いた。町の再生に向けた。列に並んだ町民は一つづつ、温かい料理を食べることができたとともに、今後も力になれることを述べていた。

少しでも快適な時間を

4日間にわたり簡易トイレ清掃



被災者が快適に過ごせるようにと、簡易トイレの清掃に汗を流した

宮坂建設工業㈱（帯広、宮坂寿文社長）は十四日から四日間、北海道胆振東部地震で被災した厚真町に社員を送り、簡易トイレの清掃活動を行った。高道伸専務の指揮のもと、町内に設置された簡易トイレを二基ずつ丹念に清掃。不自由な生活が続く町民やボランティアスタッフが少しでも快適な時間を過ごせるようにと汗を流した。

厚真町では、多くの町民が避難所生活を余儀なくされているため、被災者や昼夜を問わず業務に当たる現場職員の助けになればと、宮坂建設工業は現地での炊き出しを企画。町内店舗への食料供給が不十分な中、温かい食事を無償で提供することとした。

町内の総合ケアセンターゆくりの敷地内に災害支援隊の本部を設置し、十四日の夕食から炊き出しを開始。十七日の昼食まで、豚汁一千食、鳥丼五百食、豚井五百食、シチュー五百食、そば五百食、うどん五百食、カレー五百食を調理し、デザートも添えて一人ひとりに配膳した。

宮坂建設工業は、十四日から四日間の日程で現地に社員を派遣。高道専務を中心に結成したチームは、町内に設置された簡易トイレ

の清掃を行った。専用の清掃用具を駆使し、円滑に作業を進めながら、快適な空間をつくり上げた。

避難所で生活する町民は「多くのボランティアスタッフが、なかなか手を付けられない作業だと思つたが、善意の行動を大変ありがたく感じている」と感謝の言葉を。高道専務は「ささいな行動かもしれないが、被災された方が少しでも快適な時間を過ごすことができれば幸い」とし、額の汗をぬぐっていた。

近藤副町長（左）に目録を渡す宮坂社長（同社提供）



厚真町に義援金 300万円寄付 宮坂建設工業

【胆振管内厚真町】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は、胆振東部地震で被災した厚真町へ義援金300万円を寄付した。同社は道開発局の発注工事を厚真町で行っていた縁

もあり、14、17日に同町で炊き出し支援を実施。義援金は宮坂社長が14日、同町の近藤泰行副町長を訪れて目録を手渡した。会社からの義援金のほか、同社従業員からの34万円も寄付された。

宮坂社長は「一日も早い復興のため、役立ててほしい」と話していた。
（中島佑斗）

宮坂建設工業が炊き出し

厚真町で被災者に豚丼など

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は14日から17日にかけて、北海道胆振東部地震に見舞われた厚真町で被災者に十勝名物の豚丼を振る舞うなど炊き出し支援をした。

宮坂寿文社長が町に義援金を贈り、同社グループのダスキン事業部が簡易トイレの清掃をするなど全社を挙げて町民の生活再建に協力した。

同社による防災の取り組みは全国的に知られている。地域住民参加型の防災訓練を毎年実施し、2014年8月豪雨による広島市での土砂災害では宮坂社長らが炊き出し支援を行った。15年から

は帯広市内で親子防災教室を開催。こうした取り組みが評価され、昨年は防災功労者防災担当大臣表彰に選ばれている。

炊き出しは厚真町総合ケアセンターゆくりで実施した。本社と札幌支社から22人が参加。町内は断水のため、千歳市内で調理の下処理を済ませ、災害時にも稼働するレスキューキッチンを使って豚丼やカレーライス、豚汁、そば・うどんを、昼と夜に合計約3000食

提供した。昨年導入したワンボックスカーを改良した災害対策本部車を電源車として使い、冷蔵保管するなど衛生管理にも気を配った。

宮坂社長は14日、近藤泰行副町長に義援金を贈った。会社として300万円、役員有志の寄付として34万円の目録を手渡した。

また、登寿ホールディングスのダスキン事業部は役場庁舎や町総合ケアセンターゆくり、上厚真地区の厚南会館、厚真スポーツセンターの簡易トイレで清掃奉仕活動をした。



これまでの経験を生かして被災者を支援した

宮坂建設工業が 厚真町で炊き出し

4日で3000食提供

宮坂建設工業（北海道帯広市、宮坂寿文社長）は14～17日の4日間、北海道胆振東部地震の被災者支援の一環として、厚真町で炊き出しを行った。写真。本社と札幌支社の社員22人が参加し、豚丼やカレーライスなど4日間で6回、3000食を提供した。



厚真町は6日に発生した北海道胆振東部地震で最大震度7を観測し、発災から

1週間以上が経過した今も多くの住民が避難所での生活を余儀なくされている。町内では断水が続き、物流の停滞で食料供給も十分ではないことから、同社は炊き出しによる被災者支援を行った。

今回は14年に広島県での豪雨災害の際に被災地で炊き出しを行ったメンバーを中心に22人が参加。千歳市内の協力会社の施設を拠点に、食材の調達や切り分けを行い、水や自家発電機を持ち込んで現地の水や電力

を一切使わずに、豚汁やシチュー、そば、うどんなど3000食を調理して提供した。

14日に炊き出し会場を訪れた宮坂社長は「避難生活が長引くと被災者は不安が募り、特にお年寄りや子どもがケアが大変になる。避難所では不足する温かい食事を提供し、少しでも喜んでもらいたい」と話した。宮坂社長は同日、厚真町役場も訪れ、近藤孝行副町長に義援金334万円を手渡した。